生物介在療法学特論演習（二）（２単位）

担当者氏名　　浅野房世

◆学習・教育目標

植物介在療法を理解し、臨床に対応するためには、医療施設での実地体験が必要である。とくに首都圏の医療施設を中心に、臨床として患者に植物介在療法のプログラムを提供することを想定する。それに先立って、本演習では実地体験のための立案および模擬体験を行って、課題抽出を行なう。患者へのアセスメント、療法の焦点化、プログラムの立案、実施、そして評価という一連の行為を検討する。これらの演習は、対象となる施設でのスーパーバイザー、医師などと、当校研究室担当教官との連携を図りながら行う。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

プログラム作成　　植物の生育　　評価

◆授業の進行等について

	テーマ	内　容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	ガイダンス	医療施設における、患者への植物介在療法での対応	植物介在療法のありかた、プログラム、評価に一連を理解する
2	高齢者施設での介護	車いすの扱い	
3	身体機能低下について	ベッドのトランスファー	
4	視覚障害について	福祉施設での事故につながる問題	
5	認知症のケアについて	認知症介護の注意点	
6	高齢者福祉施設での模擬実践(1)	身体介護、見守りの高齢者への植物介在療法の実施に向けての模擬実践	
7	高齢者福祉施設での模擬実践(2)	施設が植物介在療法を受け入れるための手法	
8	高齢者福祉施設での模擬実践(3)	屋外空間とベランダの活用	
9	高齢者福祉施設での模擬実践(4)	留意すべき疾患	
10	高齢者福祉施設での模擬実践(5)	転倒事故防止の実際	
11	評価	プログラムの評価と効果	
12	課題抽出	プログラムの評価を通して、課題を抽出する	
13	課題検討	抽出課題を検討する	
14	まとめ	検討課題をプログラム改定に取り入れる	
15	発表	実践に向けたプログラムの発表	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

／　　／　　（　　）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

医療施設(精神、リハビリ、ホスピスなど)植物介在療法が可能な医療分野を想定し、その概要を学んでおく

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート（実習記録）

◆その他受講上の注意事項